

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990400067
法人名	社会福祉法人 協同福祉会
事業所名	あすならホーム天理 グループホーム
所在地	天理市川原城町207-1
自己評価作成日	2024年10月18日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoId=2990400067-Q0&ServiceId=320&Itya=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和6年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お年寄りから子どもまで、みんながいつまでも安心して暮らせる地域や町であって欲しい。これが、私たちの願いです。」と願いを込めて、「市民参加により誕生した社会福祉法人」として、子育て高齢者介護と共に、町に住まわれている人すべての方と関わりを持てるように願っています。社会貢献活動として、「買い物バス」「ランチ企画」など高齢者の居場所や介護予防普及を行っています。

買い物難民解消の手段として、移動販売車の受け入れや地域の自治会、子ども会や学校との関係も作り、お手伝いができればと思いサロンの開放等も行っています。

介護事業として、市街地の「生活に近い場所」で、介護や福祉の拠りどころとして、地域に開かれた施設を目指し、在宅での介護や暮らしを応援。フローリングは吉野杉を使い、家庭的な温かさ・生活空間を大切にしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近鉄天理駅近くの旧市街に位置している。同敷地内に併設された小規模多機能型ケアホームの利用者とも交流もあり、合間で芋ほりや炭火でサンマを焼くなどの行事を楽しんでいる。高齢化した地域に向けてサロンや移動販売の拠点、法人で買い物バスを仕立てるなど、地域に根差した活動を行っている。職員は仲良く職場は楽しいと感じている。看取りのときには、自分の家族のごとく対応し、ベッドでの洗髪や洗身を行い、家族の気持ちにも寄り添い支援している。家族からの信頼も厚く、利用者に対してもアットホームな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項 目	自 己 評 価	外 部 評 価	
			実 践 状 況	実 践 状 況	次のステップに向けて期待したい内容
1.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所の方針を立て、職員間で共有している。地域の方へ向けたサロン活動につなげられており運営推進会議をはじめ、サロン活動や買い物バス・地域学習会で実践できている。	住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続けたい思いを、法人理念である「大切にしたい7つのこと」(・利用者本位・喜びの共有・安全、安心な介護他)と「10の基本ケア」を基にグループホームの今年の目標であるお出掛け(個別の外出)、家庭訪問に力を入れ職員は実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加やサロン活動や買い物バスをはじめ事業所として地域開放を行っており、地域の催しへの参加等で交流している。また、外食やお出かけなどで交流している。	高齢化が進んでいる地域に向けて、サロンでの学習会や包括主催の男性料理教室などを開催している。また、移動販売を受け入れ、自治会のクリーンキャンペーンにも参加している。利用者は、地区の会館で開かれるサロンや商店街での買い物、喫茶店を利用している。また、今年復活した子供神輿の巡行路に組み込んでもらうよう計らい、利用者も一緒に楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域学習会を春と秋に定期的に実施し、事例発表などの場を設け取り組みを見てもらっている。また、RUN伴への参加も行い、認知症の啓発も協同している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(ケアラーの会)を2ヶ月に一度開催し、取り組み状況の報告を行っている。意見を聞く機会となっているが、複数名の職員の参加には至っておらず、管理者やケアマネジャーの参加にとどまっている。	運営推進会議(ケアラーの会)は2か月に1度、小規模多機能ホームとの合同で開催し、行政、民生委員、家族、事業所職員の参加を得て開催している。民生委員から地区敬老コンサート開催情報を聞き、利用者のお出掛けに繋げることができた。自己評価記載の職員参加が実現するとなお良いと思われる。	会議への家族の参加を呼びかけているが、出席者は少ない。アンケートから外部評価結果を見たことがない家族も多い。議題(近隣参加の避難訓練、試食会等)を工夫したり、家族交流会を利用して意見集約するなど、家族参加の取り組みと評価結果の家族への周知を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議や日常の要件で連絡を取っている。また、民生委員さんの協力を得て取り組んでいる。	天理市の介護福祉課に介護認定調査結果の報告に出向き相談等も行っている。市主催の「サービス担当者会議」が廃止になり、情報交換が少なく復活を望んでいる。地域の中学校で、「介護の仕事案内」として車いすの移動や介護方法の説明を行った。ベトナムからの実習生を受け入れており、入居者の癒しになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を行わず利用者が自由にベランダに出れるようになっている。ベッド柵等使用せず身体拘束を行っていない。また、定期的な学習の機会を設け、現状の振り返りを通して職員でケアに取り組んでいる	「身体拘束他行動制限はしない」と契約書に明記し、玄関、居室の掃き出し窓も自由に開けることができる。転倒や転落が予測される時は、手付き台を配置したりベッドを低く、さらにマットを敷くなどして対応している。身体拘束をしないリスクについても、契約時に説明しているがリスクに直面した時には、再度家族に説明されるとなお良いと思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を会議で設けている。注意を払いながら随時確認し合い、対応を変えているが一部入居者への対応が難しい。反対に職員が叩かれたり蹴られたりすることはある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ・主任・施設長と現場職員で話し合い活用できるよう実施している。全体の会議で学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明等は、管理者やケアマネが説明し理解・納得できるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人より家族からの要望が主になっている。それぞれからの主訴を職員間で話し合い、運営推進会議やケア等に反映させられている。家族さんとして向き合い意見や要望を聞きより良いケアを高めている。	家族の訪問は、月に1回はあり、要望や意見を聴き、支援経過とグループウェア(PC)に残し職員間で共有している。家族も気軽に声掛けできる雰囲気である。利用者の様子は、電話で伝えたり、SNSで見ることができるようになっている。現在訪問は、居室で2時間まで過ごせるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞く機会を会議等を設けている。それ以外でも聞くようにしているが反映は精査して行っている。	毎月行う業務改善会議で、業務内容やケアの方法について話し合っている。また、朝礼時にも意見を出し合い、申し送りノートを活用して共有している。夜勤専任の職員は、夜勤者会議で意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談・日々の関わりの中で目標が明確となり、向上心は持てる環境がある。より働きやすくする為に職場環境を整えるよう心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	職員全員となると難しい所もあるが、法人や外部研 修を活用して研修受講が行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	全職員ではないが、県外への研修や学習療法の研 修、法人内の他施設の方との会議や研修を実施。市 内の他事業所との交流機会を設け質の向上を図っ ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	利用段階で、見学をお願いしており、本人との関係 づくりを始めている。同時に情報を聞き取り共有もし ている。事前の見学等を通じて不安の軽減に努めて いる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	事前に施設に見学に来て頂き、確認して頂きなが ら、契約時に困りごとなども聞き取りしている。家族さ んが安心して下さるよう努めた、要望があった場合 可能な限り実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入居による環境変化への不安の訴えがご家族より あり、ご本人もお試しで過ごす支援ができた。入居の 際の優先度等考慮しサービス提供ができています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	100%とは言えないが、ご本人の言動から読み取る 努力とそれを尊重しようとするよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会に来て頂くよう配慮をしており、ご本人への差 入れも多く来所頂けている。ご本人の言葉等も職員 が伝えることで家族と職員がご本人の思いを共有し 支えることにつなげられている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援できる場面は非常に限られているが、自宅泊りや実家の訪問も行っている。面会は何の入居者も月1回以上来て下さっている。	入居期間が長い高齢の利用者も多く、家族の訪問に重きを置き、日用品や好物を届けてもらうようにしている。自宅での一泊やお墓参り、小規模利用者との交流、近隣の商店街へのお出掛けや銀杏並木の散歩など、馴染みの人や場の関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際の席の配置、フロアでの過ごし方も性格や関係性を考慮し、より関わり合いが持てるよう努めている。レクリエーションや体操をしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会としては非常に少ないがあれば努めている。1人でも多くの人にここに入って良かったと思って頂くよう支援を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思い・意向の把握を意識して関わりを持っている。ただ、ご本人の訴えが言葉で出せない方も多く、十分といえないと思う。その場合、ご家族から意見を頂いたり、なるべく本人本位に検討するよう努力はしている。	入居時に本人や家族から聞き取り、アセスメントシートに記入している。日々の家族からの声や日々の利用者の行動や様子から、何が大切かを把握するように努めている。自宅訪問を再開し、利用者が描かれた絵画を家族と相談し、事業所の玄関に飾った。毎年行う正月の門松作りが、男性入居者の力を発揮する場となっている。	最近看取りが続き、重度の方に目や手がいついたとのことであるが、利用者の入れ替わりをチャンスととらえ、新入居の方や軽度の方の思いを把握しケアに繋げる取り組みに期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にアセスメントを共有したりご家族から聞かせてもらう様にしているが、家族も含め知らない事も多い。ケア会議等で家族・本人・職員で把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分とは言えないがご本人の様子等含め日々記録に残し職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や介護・看護のスタッフに主治医にも協力を得て、ケアについての話し合いを現状に即した介護計画を作成している。	ケア会議に家族の参加もあり、意見を聞き取りケアプランを作成している。モニタリングをして6か月ごとに評価し、問題がなければ1年毎に更新している。「家に帰りたい」「夫婦で旅行に行けたら」「歩いてほしい」の声を拾い、長期目標に「一泊旅行、墓参り、帰宅等を入れてプランを立て実現に向け階段上りを練習し、春日大社まで出掛けられた方もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ガルーンに記録を残し、朝礼、申し送りで共有しながらその時に必要に応じてケアの見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診送迎が主になるが必要な状況下では柔軟に支援できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる催しや地域の喫茶店等、地域の資源を活用しながら、ご本人の心が動く日々の暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	井上医院と細やかに連絡をとり訪問診療できるよう支援している。他医院受診の際にも情報を提供できるよう努めている。家族の希望・医師の判断により医療を受けておられる。	ほとんどの利用者が内科の協力医と契約し、24時間対応で月2回訪問診療を受け、在宅酸素療法を受ける方もいる。皮膚科受診が必要になれば、皮膚科にも繋げてもらえる。歯科の訪問では嚥下評価もしてもらい、また、心のクリニックを利用する方もある。最近4名の看取りを経験したが、家族、職員は2名在籍の看護師の在籍を心強く感じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早めに気づき、十分に行えていると思う。看護職との相談により適切な受診も受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供は早急に行い退院に向けての情報共有にも努めている。事前の関係づくりは関わりのあった相談員さんへフィードバック等退院後の報告に伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については慎重かつ丁寧に話し合いを行い職員間でも共有し、主治医・家族・職員で支援できている。	終末期に入ってもこれまで通り、安心な生活が送れるよう支援体制を作っている。終末期に入ると家族は医師からの説明を受け、看取りの計画書が作成される。職員はベッド上での洗髪、洗身を取り入れ、家族も関わりながら安らかな最期を迎えられるよう配慮している。納棺師を招き、仕事内容の研修も行った。最近4名の看取りがあり、洗髪、洗身の技術や研修が役立った。今後デスカンファレンスをする予定である。今後は、「本人の気持ちを聴けるとときに聴いておく」ことを実感している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	限られた人数での参加になるが、毎年職員が救命救急講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害・地震・火災の訓練を行うことが出来た。運営推進会議を活用し、地域の方へもお伝えをしている。参加協力については、これからの課題。	3月の水害訓練では垂直避難、10月の地震訓練では水を使えない状態を想定してトイレでの凝固剤使用、停電時のランプ使用などの訓練を行った。2～3日分の食料、水、毛布、コンロ、パッドなどを備蓄している。来年3月には、非常食を使った炊き出し訓練を地域を交えて実施する予定である。	事業所は、水害の浸水想定地域にあたり、垂直避難場所を事業所又は近隣の建物にしたいと考えている。家族への避難場所の共有と近隣地区との災害時の協力が得られる取り組みに期待する。また、備蓄食料の数量に不安があり、見直しが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	100%とは言えない面はあるが、おおむねそのような対応ができる場面で職員が確保できている。	言葉使いに気を配り、人生の先輩と敬って接している。本人の思いを大切にし、入浴日や食事の時間も利用者の希望を尊重し対応している。足音を立てないように歩いたり、会話するときは横に座ってを実行している。SNSに写真を掲載するときは、家族の了承を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言葉を記録に残すように心がけ、希望の実現の為、介護計画に反映をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望により、食事や起床など、ご本人のペースで過ごしていただけるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃はもちろん、外出の日などは、衣類の選択を行い、ホームに出張理美容のサービスや希望によっては、地域・なじみの理美容などへの外出希望に対して、支援を行える。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、お皿への盛り付けや後片付けの手伝いとして食器拭きなどを一緒に行ってもらい、ご本人の生活上での役割が持てるように支援をしている。	おやつも含め給食業者からチルド状態で納入された副食を、湯煎して提供している。月1度の手作りランチ企画で利用者希望の餃子、ちらし寿司を献立に入れたり手作りのお弁当をテラスで食したこともある。クリスマスや誕生日には大きなケーキでお祝いし、炭火で焼いたサンマやベトナムからの実習生と作る郷土料理も楽しんだ。2名づつに別れ、ほぼ全員が外食にも出掛けた。屋食時、職員も同じ食事を共にしている。	先ずは手作り企画の日数を増やしたり、副菜に手作りを取り入れるなど工夫して、食事作り一連の動作を通じて食事がより楽しいものになるよう取り組まれることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や摂取状況に合わせ、ご家族からご本人の好みの物を持って来て頂き、希望によって提供をさせて頂いています。個別の飲み物も好みや摂り易いものをご本人・ご家族と相談し準備をお願いして提供をさせて頂きます。夏にはお茶をアガーで固めたゼリーやかき氷を提供しました。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施を行っています。必要な方には、訪問歯科診療にて訪問診療を実施し、口腔内の健康維持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつをしないケアを行い、皆さん布パンツを使用して、トイレでの排泄の支援をしています。必要な方にはパットの使用や大きさを時間帯で使い分けるなど個別で行っています。	できるだけ布パンツとパッドで過ごし、トイレに座り排泄するよう支援している。トイレは前傾姿勢支持テーブルや手すりを設置され、姿勢の安定につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレに座る事で腹圧と重力を使い便秘予防を行っています。また、食事等の工夫により腸内環境の正常化への働きかけを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯の目安は決めて行っています。ただし、汚染などがあった場合随時で清潔確保についてめています。	桧の風呂に週2回午後の時間に入浴し、全員が浴槽に浸かっている。入浴の意思や湯温の希望を聞き、1対1で入浴支援し、ゆっくり思いを聴く時間になっている。お好みのシャンプーを持ち込んだり、入浴後に化粧水やクリームを塗る方もいる。入浴を嫌がる人には、家族と一緒に入ってもらったこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な方には、日中でも30分～1時間程度休んでもらったり、体調に合わせて横になって頂くように心がけています。夜に関しても、寝付けないうなどその日の状況に合わせて、休む時間を配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援を行う者は、一定の許可を取った者で行わないようにしています。内服の用法や用量についても職員間での共有を図るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や好みを聞き取り、スタッフで共有し外出や生活支援に反映できるように心がけています。公文学習療法を希望者に行っており楽しみの一つになっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など行えるように支援をしています。計画をたてて、外食や好みの場所への外出を行えるように支援をしています。	「どンドン出掛ける」を今年の目標にし、車いす利用者と福祉車両で馬見丘陵公園や花見に出かけた。日々、商店街や近隣を散歩している。天気の良い日には全員でベランダを利用して日光浴やお茶をしたり、体操する方もいる。小規模多機能ホームと合同での芋ほりにも参加した。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人での金銭管理は行っておらず、ホームでの金銭を立替での管理を行い、金銭を使う際には立替金での使用をしています。又ご家族様に月いくらまで立て替えでお金を使っているかを確認し、お伺いを立てずにフラッと出かけられる環境を作っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があれば対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多く使った建物で、共有空間の食堂については、大きく開放的な窓を採用し、採光に配慮をしています。	内装は木目調でフローリングの床に、利用者の身体に合わせるよう高さの違うテーブルや椅子が置かれている。壁には、利用者が描いた墨絵や季節ごとに変えられるちぎり絵の短冊が飾られている。フローアーにはソファや手付き筆等が各所に置かれ、居場所づくりや安全の工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを使い、くつろげる空間作りを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に使い慣れた物を引っ越しとして持ち込んでいただくようにご家族にもお願いをしています。	居室にはカーテン、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。事業所は、入居前に使っていた道具の持ち込みを勧め、仏壇、鏡台、テレビやお孫さんの写真等を飾り、自宅と同じ様な生活環境で過ごしていただくことを目指している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札・トイレなどがわかるように表記をしています。玄関・食堂・居室・トイレ・浴室にも手つき台を置く事で、普段から生活リハビリの実践が行えるように配慮をしています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議で家族参加を呼び掛けているが、出席者は少ない。また、アンケートより「外部評価結果」を見た事がない家族も多い。地域との課題(近隣との避難訓練開催等)も含め、家族交流や家族参加の取り組みと参加・周知を期待する。	ご家族にホームへ来て頂く機会を増やし、運営推進会議にも参加をお声かけする。	運営推進会議へのお誘いに当たり、親の事を職員と一緒に考える時間として、ランチ企画にご家族様の参加を呼びかける。一緒に作って頂く中で、更なる関係づくりにつなげ、ご家族様の相談場所になれるようにする。	12ヶ月
2	23	開設当初の方のお看取りが続き、重度の方に目や手が必要であったが、新しい入居者の入れ替わりを機に、新入居者や軽度の方の思いを把握し、ケアにつなげる取り組みを期待する。	ご入居者毎のやれる・やりたい事を一緒に行い楽しむ。	新しい入居者の歓迎を現入居者さんがそれぞれやれることを一緒に準備をする。日々の中で各入居者さんの夢中になれることを見つける。	12ヶ月
3	35	事業所は、水害の浸水想定地域にあたり、垂直避難場所を事業所又は近隣の建物にと考えている。家族への避難場所の共有と近隣地区との災害時の協力を得られる取り組みを期待する。また、備蓄食料の数量を7日間への見直しを望む。	地域の方に対してホームの防災訓練を知ってもらう事から始める。	地域の防災訓練への参加や日頃から地域の方との防災についての話も行う事で共に考える機会を持つ。また、ご家族様への発信についてもランチ等を活かしながら、話題提供も行う。備蓄量についてはBCPにも順次見直しを行う。	12ヶ月
4	40	手作り企画の日を増やしたり、副菜に手作りを取り入れるなど工夫をして、食事づくりの一連動作を通じて、食事がより楽しい物になるように取り組まれる事を期待する。	ご家族様とランチ企画を行い、一緒に食事を作る・食べる時間を設けることで、より楽しい時間とする。	ご家族にも参加していただけるランチ企画の日を設ける。また、好きな物を家族様から聞き取り、メニューに取り入れて一緒に楽しむ。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。